

授業科目(ナンバリング)	茶道文化ⅡA(AB201)			担当教員	安部直樹 ※柳井駿平		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
濃茶点前(前半)の習得を通して、おもてなしについて考える力を培い、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。また、薄茶点前と濃茶点前の違いについて気付くことができる。さらに茶道具作り(茶杓作り、服紗作り)、着付け、和菓子作り、花生け、絵手紙のうちから選び、体験学習することで茶道の芸術性を理解する力を養う。							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	茶摘みや、濃茶点前で使用する道具の名称などを理解し説明することができる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	茶道具作り(茶杓作り、服紗作り)、着付け、和菓子作り、花生け、絵手紙の体験学習をすることで茶道の芸術性を理解できる。禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				レポート 課題・レポート	5% 10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「濃茶点前(前半)」の流れを理解することができる。				点前確認	50%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
点前確認の成績を50%とし、濃茶点前(前半)の流れを理解しているかなどから評価する。授業態度については30%とし、濃茶点前(前半)の流れを実践するなど、授業への積極的な参加から評価する。課題とレポートの提出状況については10%とし、ポートフォリオを利用して行う。課題レポートの回答については、回答例を提示しフィードバックする。小テストについては5%とし、3回目と5回目にポートフォリオ(manaba)を用いて行う。レポートの5%は、ポートフォリオ(manaba)を利用して、オプションの授業への取り組みと感想から評価する。							
授業の概要							
点前については、茶入や仕覆の扱い方を学び、濃茶点前(前半)を完成させることを目標とする。教材として、茶道文化研究所作成の動画も用いる。オプション授業では、茶道具作り(茶杓作り、服紗作り)、着付け、和菓子作り、花生け、絵手紙のうちから選び、体験学習を通して芸術を理解する。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など1,400円の諸経費が必要である。オプション授業代は、500円が別途必要である。カリキュラム上、茶道文化ⅡAを履修するためには、茶道文化ⅠA・ⅠBの単位を取得することが必須である。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 63～80頁 参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流点前入門編』長崎国際大学G P関連事業(2014年) 指定図書：小山茂樹著『茶壺に追われて一ほっこり宇治茶にこぼればなし』淡交社(2009年)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・授業で学んだ点前は必ず稽古すること。 ・他の流儀の茶会にも積極的に参加すること。 							

火3クラス、水2クラス、金3クラス

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	・薄茶点前総復習 ・客作法復習	茶道文化 I で学んだ薄茶点前と客作法を復習する。 (安部・柳井)	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 70~80 を読み、 予習・復習をする。
2	・薄茶点前総復習 ・客作法復習	茶道文化 I で学んだ薄茶点前と客作法を復習する。 (柳井)	教科書 pp. 70~80 を読み、 予習・復習をする。
3	・濃茶点前の導入 (茶入の扱い方) ・小テスト	濃茶点前の導入として、茶入の扱い方を学ぶ。 (安部・柳井)	教科書 pp. 81~88 を読み、 予習・復習をする。
4	・濃茶点前の導入 (茶入の扱い方)	濃茶点前の導入として、茶入の扱い方を学ぶ。 (柳井)	教科書 pp. 81~88 を読み、 予習・復習をする。
5	・炭点前(風炉) ・茶摘みについて ・小テスト	炭点前(風炉)を確認し、概要を理解する。 茶摘みについて学ぶ。 (安部・柳井)	教科書 pp. 63~69 を読み、 予習・復習をする。
6	・濃茶点前(前半) (茶筌と茶巾を取りだすまで)	茶筌と茶巾を取りだすまでの流れを確認する。 (安部・柳井)	教科書 pp. 81~84 を読み、 予習・復習をする。
7	・濃茶点前(前半) (茶筌と茶巾を取りだすまで)	茶筌と茶巾を取りだすまでの流れを確認する。 (柳井)	教科書 pp. 81~84 を読み、 予習・復習をする。
8	・濃茶点前(前半) (抹茶を入れるまで)	柄杓の引き違いをし、抹茶を入れるまでの流れを確認する。 (安部・柳井)	教科書 pp. 84~86 を読み、 予習・復習をする。
9	・濃茶点前(前半) (抹茶を入れるまで)	柄杓の引き違いをし、抹茶を入れるまでの流れを確認する。 (柳井)	教科書 pp. 84~86 を読み、 予習・復習をする。
10	・濃茶点前(前半) (茶碗を取り込むまで)	服紗の片手さばきから茶碗を取り込むまでの流れを確認する。 (安部・柳井)	教科書 pp. 87~89 を読み、 予習・復習をする。
11	・濃茶点前(前半) (茶碗を取り込むまで)	服紗の片手さばきから茶碗を取り込むまでの流れを確認する。 (柳井)	教科書 pp. 87~89 を読み、 予習・復習をする。
12	・濃茶点前(前半) 稽古	濃茶点前(前半)の流れを確認する。 (柳井)	教科書 pp. 81~89 を読み、 予習・復習をする。
13	・オプション授業①	オプション方式で授業内容を選択する。茶道具作り(茶杓作り、服紗作り)や、着付け、花生け、和菓子作り、絵手紙などの授業内容のうちから1つを選び、体験学習をする。 (安部・柳井)	予習・復習については授業内で指示する。
14	・オプション授業②	オプション方式で授業内容を選択する。茶道具作り(茶杓作り、服紗作り)や、着付け、花生け、和菓子作り、絵手紙などの授業内容のうちから1つを選び、体験学習をする。 (安部・柳井)	予習・復習については授業内で指示する。
15	・点前確認	濃茶点前(前半)についてどこまで理解しているか確認する。 (安部・柳井)	濃茶点前(前半)の完成を目指す。

授業科目(ナンバリング)	茶道文化ⅡA(AB201)			担当教員	嶋内麻佐子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
濃茶点前(前半)の習得を通して、おもてなしについて考える力を培い、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。また、薄茶点前と濃茶点前の違いについて気付くことができる。さらに茶道具作り(茶杓作り、服紗作り)、着付け、和菓子作り、花生け、絵手紙のうちから選び、体験学習することで茶道の芸術性を理解する力を養う。							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	茶摘みや、濃茶点前で使用する道具の名称などを理解し説明することができる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	茶道具作り(茶杓作り、服紗作り)、着付け、和菓子作り、花生け、絵手紙の体験学習をすることで茶道の芸術性を理解できる。禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				レポート 課題・レポート	5% 10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「濃茶点前(前半)」の流れを理解することができる。				点前確認	50%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
点前確認の成績を50%とし、濃茶点前(前半)の流れを理解しているかなどから評価する。授業態度については30%とし、濃茶点前(前半)の流れを実践するなど、授業への積極的な参加から評価する。課題とレポートの提出状況については10%とし、ポートフォリオを利用して行う。課題レポートの回答については、回答例を提示しフィードバックする。小テストについては5%とし、3回目と5回目にポートフォリオ(manaba)を用いて行う。レポートの5%は、ポートフォリオ(manaba)を利用して、オプションの授業への取り組みと感想から評価する。							
授業の概要							
点前については、茶入や仕覆の扱い方を学び、濃茶点前(前半)を完成させることを目標とする。教材として、茶道文化研究所作成の動画も用いる。オプション授業では、茶道具作り(茶杓作り、服紗作り)、着付け、和菓子作り、花生け、絵手紙のうちから選び、体験学習を通して芸術を理解する。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など1,400円の諸経費が必要である。オプション授業代は、500円が別途必要である。カリキュラム上、茶道文化ⅡAを履修するためには、茶道文化ⅠA・ⅠBの単位を取得することが必須である。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 63～80頁 参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流点前入門編』長崎国際大学G P関連事業(2014年) 指定図書：小山茂樹著『茶壺に追われて一ほっこり宇治茶にこぼればなし』淡交社(2009年)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・授業で学んだ点前は必ず稽古すること。 ・他の流儀の茶会にも積極的に参加すること。 							

水1クラス、水3クラス

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	・薄茶点前総復習 ・客作法復習	茶道文化 I で学んだ薄茶点前と客作法を復習する。 (嶋内)	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 70~80 を読み、 予習・復習をする。
2	・薄茶点前総復習 ・客作法復習	茶道文化 I で学んだ薄茶点前と客作法を復習する。 (嶋内)	教科書 pp. 70~80 を読み、 予習・復習をする。
3	・濃茶点前の導入 (茶入の扱い方) ・小テスト	濃茶点前の導入として、茶入の扱い方を学ぶ。 (嶋内)	教科書 pp. 81~88 を読み、 予習・復習をする。
4	・濃茶点前の導入 (茶入の扱い方)	濃茶点前の導入として、茶入の扱い方を学ぶ。 (嶋内)	教科書 pp. 81~88 を読み、 予習・復習をする。
5	・炭点前(風炉) ・茶摘みについて ・小テスト	炭点前(風炉)を確認し、概要を理解する。 茶摘みについて学ぶ。 (嶋内)	教科書 pp. 63~69 を読み、 予習・復習をする。
6	・濃茶点前(前半) (茶筌と茶巾を取りだすまで)	茶筌と茶巾を取りだすまでの流れを確認する。 (嶋内)	教科書 pp. 81~84 を読み、 予習・復習をする。
7	・濃茶点前(前半) (茶筌と茶巾を取りだすまで)	茶筌と茶巾を取りだすまでの流れを確認する。 (嶋内)	教科書 pp. 81~84 を読み、 予習・復習をする。
8	・濃茶点前(前半) (抹茶を入れるまで)	柄杓の引き違いをし、抹茶を入れるまでの流れを確認する。 (嶋内)	教科書 pp. 84~86 を読み、 予習・復習をする。
9	・濃茶点前(前半) (抹茶を入れるまで)	柄杓の引き違いをし、抹茶を入れるまでの流れを確認する。 (嶋内)	教科書 pp. 84~86 を読み、 予習・復習をする。
10	・濃茶点前(前半) (茶碗を取り込むまで)	服紗の片手さばきから茶碗を取り込むまでの流れを確認する。 (嶋内)	教科書 pp. 87~89 を読み、 予習・復習をする。
11	・濃茶点前(前半) (茶碗を取り込むまで)	服紗の片手さばきから茶碗を取り込むまでの流れを確認する。 (嶋内)	教科書 pp. 87~89 を読み、 予習・復習をする。
12	・濃茶点前(前半) 稽古	濃茶点前(前半)の流れを確認する。 (嶋内)	教科書 pp. 81~89 を読み、 予習・復習をする。
13	・オプション授業①	オプション方式で授業内容を選択する。茶道具作り(茶杓作り、服紗作り)や、着付け、花生け、和菓子作り、絵手紙などの授業内容のうちから1つを選び、体験学習をする。 (嶋内)	予習・復習については授業内で指示する。
14	・オプション授業②	オプション方式で授業内容を選択する。茶道具作り(茶杓作り、服紗作り)や、着付け、花生け、和菓子作り、絵手紙などの授業内容のうちから1つを選び、体験学習をする。 (嶋内)	予習・復習については授業内で指示する。
15	・点前確認	濃茶点前(前半)についてどこまで理解しているか確認する。 (嶋内)	濃茶点前(前半)の完成を目指す。